

令和7年度

教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	39	学校名	東濃高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	多様な価値観や個性、文化を持つ生徒が共に育ち学ぶ高校として 主体的な学びと地域に根差した教育活動を通して 次代を担い、ふるさとに貢献できる人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	知・徳・体の調和のとれた将来有為な人材を育成する。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	・自ら学び、自ら考え、判断し適切な行動ができる生徒 ・多様な価値観、個性、文化を認め、互いを尊重して行動できる生徒 ・変化化する社会に適応して、地域に信頼され、貢献できる生徒	
	生徒をどう 育てるか 【C P】	・生徒の実態に合わせた主体的・対話的で深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と授業実践 ・多様な価値観や個性を持つ生徒どうしの学校生活を通して、互いを尊重し互いに認めあいながら、自己肯定感を伸長することのできる人間性の育成 ・地域や外部と協働し、すべての特別活動、部活動や教科学習を通じて、地域の課題を発見・解決できる「主体的・対話的で深い学び」や「探究的学び」の推進	
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	・基本的生活習慣が身に付いており、ルール・マナーが守れる生徒 ・多様な価値観を認め合い、他者を尊重して主体的に学べる生徒 ・将来、社会的に自立するために、自己の進路実現に向け意欲的に努力することができる生徒	
学校の抱える課題	・基礎学力の定着に向け、生徒が主体的に学ぶ「わかる授業」と個に応じた学習支援を一層推進すること。 ・基本的生活習慣や規範意識だけでなく、社会で生きるためのコミュニケーション能力やソーシャルスキルを身に付けさせること。 ・自己肯定感や自己有用感を育てるため、校内外において生徒が活躍する場をさらに設けること。 ・全校で6割を超える「外国につながる生徒」へのキャリア教育を含めた総合的な支援をより一層進めるとともに、保護者の深い理解と協力を得ること。 ・働き方改革を推進するため、分掌業務の再構築及び適材適所の人員配置を行うとともに、教員研修等の充実と生徒情報や指導についての共通理解を図ること。		
教育指導の重点	領域・分野	の 具 体 的 な 重 点 目 標	
	学習指導	・一人ひとりの学力の向上とすべての生徒が学べるインクルーシブな学習環境を整えることによって、個に応じた学習支援を行います。 ・I C T機器(タブレット)の活用や少人数教育に加えて、「ふるさと教育」の推進等により、生徒の「探究的な学び」を支援します。	
	進路指導	・自己理解を進め、キャリア教育を含めた総合的な支援を推進し、社会で生きるためのコミュニケーション能力を育成します。 ・自己のあり方生き方を考えさせ、勤労観・職業観を育てるための活動を計画的に配置し、進路希望の実現を目指します。	
	生徒指導	・多様な価値観を認め、他者の立場を理解し、共感する力を育て、社会に出て自立できる生徒を育てます。 ・幅広いものの見方や奉仕の精神、健康でたくましい心身、規律ある生活態度を育成します。	
	学校経営	・働き方改革に努め、教職員が健康でいきいきと生徒と向き合える教育環境を整えとともに、地域から信頼される学校づくりを推進します。 ・スクールミッションに掲げる本校の役割を踏まえて、将来への明確なビジョンをもち、あらゆる教育活動を支える校内体制を構築します。	

年 度 目 標				年 度 末 評 価 (自 己 評 価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	「授業のユニバーサルデザイン化」や「評価の可視化」により、学習内容や到達目標を明確化し、生徒が主体的に取り組むことのできる授業を実践します。	施策Ⅱ-8	生徒の授業評価に基づいた教員の授業改善が図れたか。生徒及び教員による授業評価（肯定的評価80%）				
	タブレット活用（I C T利用）・校内研修・授業公開・授業アンケートなどを通して授業改善に努め、生徒が主体的に取り組める、わかる授業を展開します。	施策Ⅱ-9	教員による授業評価（実施回数1回以上）				
	フィールドワーク活動や、家庭科選択科目での「みたけ華ずし」体験など、地元御嵩町との連携や外部人材の活用により、ふるさと教育を推進し、地域から信頼される学校づくりと、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。	施策Ⅰ-4	アンケート実施（生徒の満足度80%）				
	全校生徒の6割以上を占める「外国につながる生徒」に対し、学校設定教科「日本語」の開講や支援員の配置により、積極的な学習支援を行います。	施策Ⅳ-22	生徒の授業評価に基づいた教員の授業改善が図れたか。				
進路指導	演劇表現ワークショップやキャリア教育プログラムをはじめ、学校生活の様々な場面の中でコミュニケーション能力を培い、他者との望ましい人間関係の構築を促します。	施策Ⅰ-1	講師等への意見聴取。生徒対象アンケート（肯定的評価80%）				
	類型や選択科目により多様な進路希望に応えるとともに、進路ガイダンス等を通じて自己のキャリア形成を支援します。	施策Ⅳ-23	学校評価アンケート（肯定的評価80%）				
	御嵩町や国際たくみアカデミー等との連携により、進路目標実現に向けてのスキルを習得させるとともに、正しい勤労観・職業観を育成します。	施策Ⅱ-13	連携講座の実施（実施回数10回）				
	一人一人が夢をもち、進路目標の実現に向けて意欲をもって学習できるように、3年間を見通したキャリア教育を実践します。	施策Ⅱ-13	充実したキャリア教育を実施するとともに、取り組みにつながりをもたせられたか。				
生徒指導	「『あじみ』のできる学校」をキャッチフレーズに、挨拶の励行、時間を守る行動、身なりを正すことに重点を置くとともにマナーの向上を図り、基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を目指します。	施策Ⅲ-19	安全な登下校と挨拶の励行、身だしなみを整えることができたか。学校評価アンケート（肯定的評価80%）				
	部活動やボランティアなど校内外の活動を充実させ、自己肯定感を育てながら、活気ある学校づくりと思いやりあふれる心の育成につなげます。	施策Ⅰ-7	ボランティア参加人数（延べ100人以上の参加）				
	全職員が共通理解のもと、すべての教育活動を通して公平かつぶれない生徒支援を目指します。	施策Ⅰ-2	生徒対象アンケート、保護者からの意見（肯定的評価の有無）				
	心身の健康管理を自分で適切に行うことができるとともに、規律ある高校生活と社会の一員としてのマナーを身に付けられるような生徒支援を推進します。	施策Ⅰ-1	安全な登下校と挨拶の励行、身だしなみを整えることができたか。				
学校経営	出退勤管理システム等の活用により教職員の適正な勤務時間の管理を行い、過重な勤務状況を把握し、職員への声かけや指導を徹底します。また、定時退庁日や「ノー残業デー」の徹底や計画的な休暇の取得促進により、教職員の業務の効率化や健康管理への意識を高めます。	施策Ⅳ-27	業務の効率化を図れたか。時間外勤務時間が月45時間を超える職員数（前年比50%減→基本目標0人）				
	授業の公開やホームページなどを通して、本校の教育活動が保護者や地域の方々にさらに理解されるような広報活動に努めます。	施策Ⅳ-20	ホームページのアクセス数を増やせたか。中学校との情報交換を行えたか。				
	教職員の資質向上を目指し、教職員自らが研修等の機会を積極的に活用し、自己研鑽する中で、幅広い教養と高い専門性をもち、愛情と使命感にあふれる教育者の育成を目指します。	施策Ⅳ-26	前年度と同等かそれを越える教職員によるセンター研修の受講。教職員による、研修の機会の増加。				

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年 月 日

学校関係者評価

実施日：令和8年 月 日